

別海町に希少スゲ類を訪ね歩く

札幌市 齋藤 央

零、はじめに

スゲ属の研究者か余程の植物好きでも無い限り、カヤツリグサ科スゲ属と聞いて具体的な種名を10個正確に列挙できる人間は、世間にはそうそう居ないはずです。

湿原に入るとツツジ科やタヌキモ科にばかり目が行く私にとって、スゲ属はモブのような存在でした。散々顔を合わせている種は何か覚えられるものの、それ以外は気付けば良い方、見過ごしてきた方が多いかもしれません。それでも、別海町の湿原を歩く中で、今まで自分が描いていたスゲのイメージを覆す種と出会い、「わかりやすい種だけでも覚えてみよう」という意欲が幾らか出てきました。2022年4月末から10月末にかけて踏査した16カ所の別海町内の湿原(図1)で見かけたスゲ類について、縷々述べてみます。

一、タルマイスゲ(絶滅危惧Ⅱ類)

このスゲとの出会いの場所は、2017年以来毎年のように訪ねている西別南湿原

(仮称)ですが、それと認識したのは2021年でした。直立した茎を疎生させ、濃褐色の鱗片を背負った青白い果胞を直立した数個の松かさ状の穂に付けている(図2)のを見た時には、「どうしてこんなにわかりやすい植物が目に留まらなかったのか」と自分に呆れると同時に、美しいスゲだなあと暫し感動した自分にも少し驚きました。お恥ずかしながら、宿舎で勝山(2015)を開いてやっとレッドデータ記載種と気付く始末でした。

西別南湿原はヤチカンバこそ無いものの西別ヤチカンバ湿原と共通する分類群が多く、タルマイスゲもその一つです(別海町教育委員会2022)。後述の4種と比べて背丈が高く発見しやすいことも相俟って、以降の別海町内での探索ではまずこのスゲを探すことにしました。

2022年度の調査では5カ所の湿原でタルマイスゲが発見できました。あまり群生せず、遭遇しにくいスゲと思われるため、今後の調査で更に見つかる可能性があります。



図1 2022年度に訪ねた湿原の一覧



図2 西別南湿原のタルマイスゲ